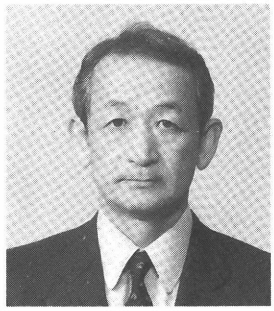
第7回日本癌病態治療研究会の開催にあたって



京都府立医科大学第一内科　近藤元治

1997年の秋から98年の春にかけて，京都では癌関連の学会や研究会がつづきます．そのなかのひとつが，このたび計画いたしました「CANCER WEEK IN KYOTO，1998」で，1998年3月18〜20日の3日間にわたり，国立京都国際会議場で開催されます．

これははじめての試みなのですが，「第7回日本癌病態治療研究会」（磯野可一会長）と「第20回癌局所療法研究会」（佐治重豊会長）の二つの研究会を，合同大会として開かせていただくことになりました．癌治療という面から，二つの研究会は従来より，それぞれの特徴を生かしながら発展して参りました．その両者を一度ドッキングさせて，合同の会議にしてみたいという希望を，当番世話人をお引き受けしたときからもっておりました．その小生の希望を，癌病態治療研究会の磯野可一会長と癌局所療法研究会の田口鐵男前会長がご了解くださいましたので，早速実行する運びになりました．

合同会議のプログラムとしては，まず特別講演でLink KH教授に転移性肝癌の局所療法について，またShu S教授にはT細胞養子免疫をお願いすることにしました．それに面白い試みとして，田口鐵男・磯野可一・佐治重豊の3先生による鼎談を企画いたしました．どんな話が飛び出すのか，楽しみにしております．教育講演では，辻井博彦教授に重イオン治療についての実際を解説していただきます．ほかにランチョン・セミナーを河上　裕教授に，そしてシンポジウムを2題とワークショップを予定しております．

この合同研究会と並列で，「第3回日本緩和医療学会（柏木哲夫理事長）」を開催いたします．この学会は，末期癌患者のケアに関心の深い医師・コメディカルを中心に発足し，すでに2回の学術集会を終えましたが，毎回1,000人をこえる参加者が熱心な討議を行っております．

このように“CANCER WEEK IN KYOTO，1998”として二つの研究会と一つの学会を連続して行うことを計画しました主旨は，癌研究のなかで〈病態・治療〉を専門に

行っておられる先生方には〈緩和医療〉についての現状を知っていただき，現場の声にも耳を傾けていただきたいことにあります．またホスピスや緩和医療に関係する方々にも，日日進歩している癌治療に目を向ける機会にしていただきたいという意図があります．末期癌治療では苦痛の緩和を図るのは当然ですが，ときには積極的な治療が緩和に役立つことがあるのを，再認識していただきたいのです．

研究会や学会のメンバーだけでなく，地域医師会や多くのコメディカルにも参加をよびかけ，患者の〈キュア〉と〈ケア〉をじっくりと見据えていただきたいと考えているところです．そのために，会場登録費は三つの会に共通で低額に抑え，どなたでも自由に参加していただけるように配慮する予定でおります．

最先端の癌治療と緩和医療の組み合わせは，きっと興味のある「癌週間」になると信じています．乞，ご期待．

第 7 回　日本癌病態治療研究会
第 20 回　癌局所療法研究会
合同会議

当番世話人：近藤元治（京都府立医科大学第一内科）
開　催　日：平成 10 年 3 月 18 日～19 日
場　　所：京都国際会議場
連絡先および事務担当

〒 602-0841　京都市上京区河原町広小路
京都府立医科大学第一内科
第 7 回日本癌病態治療研究会
加藤治樹
TEL 075-251-5505　FAX 075-252-3721